

出雲科学館での理科学習

The Science Class at The Izumo Science Center

出雲科学館

Izumo Science Center

Goal 4

出雲科学館は、学校教育と社会教育の拠点施設として、平成14年7月に開館しました。年間計画に基づき、出雲市内の全ての小中学校との協働により、児童生徒を対象に観察や実験を主体とした“正規の授業”として理科学習を継続して実施しています。

小学3年生から中学3年生を対象に年間13単元の理科学習を、午前・午後に4学級ずつ3単位時間（45分×3）ティーム・ティーチングの体制で実施します。1学年当たりの児童生徒数は1,500～1,600人（約50学級）で、年間約2万人を受け入れています。

これらの単元は出雲市内の教員で組織される理科学習内容検討委員会によって選定されます。観察・実験・工作などは、学習指導要領に準拠しながら、児童生徒にぜひ体験させたい独創的で発展的な内容を含めて構成しています。各学校へ個別に配置することの難しい最新鋭の高度な装置・機器・材料を使って、児童生徒の独創性豊かな学習能力や学習意欲の向上を基礎・基本から高次元に渡って促進します。大学・研究所や博物館・科学館などで報告される最新情報を常に収集し、最新の内容を取り入れるように随時改善しています。例えば島根大学、山口大学、京都大学防災研究所、九州大学大学院、理化学研究所、物質・材料研究機構、国立科学博物館、日本科学未来館、本田技研工業、村田製作所などの研究成果を取り入れて実施しました。

なお、出雲市内の全ての児童生徒を対象にするため、特別支援学級や不登校傾向の児童生徒を対象にした学習やその支援も併せて継続して実施しています。



一人一台の顕微鏡を使用してヒメダカの受精卵をじっくりと観察する児童の様子（小学5年生「魚のたんじょう」）



接触センサーや光センサーなどを利用したロボット制御の発展的な学習をする生徒の様子（中学3年生「科学技術の発展」）